

様式13

会派視察研修計画書

令和1年9月20日

碧南市議会議長 様

会派名 令和新風会
代表者名 新美 交陽

下記のとおり、視察（研修）を計画したので届け出ます。

| | | | |
|------|---|--|-------------------------------|
| 参加議員 | 新美交陽、祢宜田拓治、磯貝幸雄 | | |
| 日時 | 令和1年11月14日（木）～令和1年11月15日（金） | | |
| 視察先 | 大阪府八尾市 三重県いなべ市 | | |
| 研修内容 | 八尾市 高齢者、障害者のごみ出し支援事業 いなべ市 まちの賑わいづくり、施設の有効利用 | | |
| 日程 | 14日 名鉄 JR 新幹線 JR 碧南中央駅——刈谷駅——名古屋駅——新大阪駅——八尾市—— 14:00～15:30 新大阪——ホテル 15日 新幹線 レンタカー 新大阪駅——名古屋駅——いなべ市——碧南市 13:00～14:30 | | |
| 交通手段 | <input type="checkbox"/> 公共交通機関 (電車・新幹線) | <input type="checkbox"/> 公共交通機関 (飛行機) | <input type="checkbox"/> 自家用車 |

※該当するものにチェック☑してください

様式14

会派視察研修報告書

R1年12月3日

碧南市議会議員 様

会派名 令和新風会

代表者名 新美交陽

印

下記のとおり、視察（研修）を実施したので報告します。

なお、参加者議員 3人 分の視察研修成果報告書を添付いたします。

| | |
|------------------|--|
| 参加議員 | 新美交陽、裨宜田拓治、磯貝幸雄 |
| 日時 | R1年11月14日（木）～ R1年11月15日（金） |
| 視察先 | 大阪府八尾市 三重県いなべ市 |
| 研修内容 | 八尾市——高齢者、障害者のごみ出し支援事業 いなべ市——にぎわいの森（まちおこし地域創生） |
| 視察先面会者 又は講師名等 | 八尾市——環境事業化、資源環境か いなべ市——企画部政策課 |
| 備考 | |

※ 相手方から收受した資料の写しを添付してください。

会派視察研修成果報告書

令和元年11月15日
議員氏名 新美交陽

視察研修に参加したので下記のとおり成果を報告します

- 1 期間 令和元年11月14日（木）から11月15日（金）
- 2 視察先 大阪府八尾市、三重県いなべ市
- 3 視察の種類 令和新風会、新しい碧南をつくる会

八尾市ゴミ出しについて

1 ふれあい収集事業について

経緯 平成17年より開始、平成21年から八種分類

目的 事業ゴミを自ら集積所まで持ち出すことが困難な高齢者や障害者を対象に市の収集担当者が玄関先などでゴミを収集する

面談にて対象となるかを決定

- 1 要介護認定、要介護1以上
- 2 身体障害者手帳交付者で一級、二級
- 3 療育手帳交付者で知的障害 A
- 4 精神障害者保健福祉手帳交付者で一級
- 5 妊産婦（産後1年以内）
- 6 その他高齢、負傷、疾病で歩行困難またはごみ出しが困難

*原則家に立ち入らずに玄関先で収集する

予算 特になし

実績 ふれあい収集は6名が担当

広報 市政だより、チラシ

問題点 対象者の拡大

2 回収ボックス設置事業について

平成21年よりペットボトル、充電電池、スマホ、携帯

3 ごみゼロ 資源が循環する

3R リデュース（ゴミを出さない）リユース、リサイクル
ホームページ、スマホアプリで広報

資源化率が上がっていない

環境教室、出前講座を保育園、小学校、中学校で行っている

新聞回収が減っている

碧南市もゴミを出せない高齢者等が今後増えるので、この施策は大変有効である

いなべ市「にぎわいの森」について

経緯

平成15年市町村合併

分庁舎方式（部を分けて分担）当初計画

合併特例債10年利用

東日本大震災緊急減災事業が延長されたため全体を一つの庁舎にした

東海環状自動車道が5年後に開通予定「にぎわいの森」の横へ

「にぎわいの森」の発想は市長

全国有名店の出店及び地元産品の利用、地元雇用の推進

建屋4棟で5店舗

面積1.2ha

5万人/月、現在9月までに34万人、6割が市外の人、県内と名古屋が多い

観光入込客数、従来37万人に24万人が増えた

キャッチコピー

「グリーンクリエイティブいなべ」センスの良い若い女性に人気を得る必要あり
都会の人を魅了するモノ、コト、トキ、いなべブランドの創造

広報、新聞、Web サイト、Web マガジン、ガイドブック

旧旅館、学校再利用

名古屋、大阪で有名店のオーナーに共鳴を得る、いなべに移住した人もいる「イクタフード」

森の中に散歩道があり店舗が沿道に

地元産品の利用、さくらポーク、お茶がスイーツに利用される

新名神の開通で京都の人が近くなった

全従業員の8割は市民が就業している（30人ぐらい）

碧南のイクタフードも出店している

今後の取り組み

市民にもっとなじんでもらう必要がある

梅まつりとにぎわいの森との連携

地元の商店街との軋轢はあるが、徐々に解消しつつある

店舗は建物5億円

テナント料、電気、ガスは5億円の1/3の額を30年払いが基本になっている

月13万円ぐらい（1店舗）

20万円以下の備品は店舗負担

開店以降の設備は店舗負担

大規模なものは市が負担（ふるさと納税を利用する方向）

有名店を誘致して若い世代に関心を持ってもらう、市が施設を整備している
地元店との軋轢は大きいものがあると思うが、市長の思いきった発想は議会では半数近くが
反対であったが可決した
このくらいの発想をしなければ誘客はできないと思う
碧南市も23号に近いエリアにその可能性がある

視察研修成果報告書

令和1年11月30日

議員氏名 磯貝幸雄 印

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期間 令和1年11月14日（木）～令和11月15日（金）
- 2 視察先 大阪八尾市、三重県いなべ市
- 3 視察の種類 会派視察
- 4 視察の成果等

14日（1日目）八尾市 ごみ出しについて

今回の八尾市視察は、ごみ出しについて碧南市との相違点の検証。碧南市はごみ分別先進地であるが、現在、燃えるゴミについては、ごみステーションにて曜日により回収資源ごみに関しては、地域での立ち当番制により決められた日に、集積場所に持っていく事になっている。立ち当番が議論となっており、このような制度のない八尾市に視察させて頂きました。

*ふれあい収集事業について

ごみを自ら集積所まで持ち出す事が困難な高齢者や障害者等を対象に市の収集担当者が門前や玄関先などで家庭ごみを収集するサービスです。

八尾市では平成17年度より「ふれあい収集」を行ってきました。超高齢化社会を迎え一人暮らしの高齢者世帯の増加や核家族化の進行により、自分で集積場所までごみを出すことができない方や、身近に協力者がみえない方などの増加が見込まれており、ふれあい収集の更なる推進を図るために利用要件の見直しを行った。

ごみを自ら集積場所まで持ち出すことが困難であり、かつ身近な人の協力を得られない一人暮らしの人で、以下のいずれかに該当する人、ただし、同居人がいる場合でも、該当同居人が以下のいずれかに該当する人や年少者であり、ごみの排出が困難な場合は、ふれあい収集を受けることができる。

- 1、 要介護認定において要介護1以上に該当する人
- 2、 身体障害者手帳の交付を受け、かつ、障害の程度が1級、2級に該当する人
- 3、 養育手帳の交付を受け、かつ、知的障害の程度がAに該当する人

- 4、 精神障害者手帳交付を受けかつ、障害の程度が1級に該当する人。
- 5、 妊婦
- 6、 その他、高齢、負傷、一時的にごみ出しが困難と市長が認める人

*老人ホーム、グループホーム等の福祉施設に入居している場合は受けることができない。

改正は高齢者に、困った方を積極的に手助けする姿勢が素晴らしいと感じた。

碧南市でも高齢者、障害者の思いやりを手厚く考えるべき、この事業には特別な予算は出ていないことも素晴らしい。

あきまへん!!
このごみ出しは

YAG

本日（15日）の収集品目ではありせん
正しい収集日にお出しください
※収集日は収集曜日カレンダーで確認してください

八尾市環境部環境事業課 ☎072-991-6254

15日（2日目） いなべ市にぎわいの森

この施設は市役所の新設に伴い、隣接した土地に森をつくり、にぎわいの森を核に、GCIを推進してつながりの場、人づくり、新たな価値の創造、協働の場シビックプライドの構成などを目的に今年5月にオープン。

この事業は国の合併特例債、緊急防災・減債事業債、地方創生等の補助金を受け、市としての方針は「単なるオフィスではなく、観光や防災のまちづくりの拠点、地理的中心、災害に強い場所」と定め、新庁舎整備基本方針を作成し、施政方針いなべ創生事業グリーンクリエイティブいなべ「にぎわいの森」計画が完成。まちの可能性をアピール、人材の発掘。

GCIの理念については、クリーン——いなべの豊かな自然、里山、農産品等の地域特有の資源。ローカルセンス——都会的なものに磨き上げていく感性。都会の人を魅了するモノ、コト、トキの創生である。

GCIプロジェクトの取り組みとしては、キャンペーン事業（プロモーション）、生業事業、（人材の発掘）、ローカルセンスシュップ事業（店舗の誘致）が挙げられる。

にぎわいの森の敷地面積約12,000㎡、4つの建屋に5つの店舗、他に試験農園、ピクニックゾーンがある。

設計の特色、建屋はデザインコンセプト「ファクトリー」、もともとあった杉林をイメージした杉板外壁とセメント素材の組み合わせ。森は園芸種を控え、風土に合った地場樹木を植栽、一周300m弱の程よい距離感となっている。

オープン以来、月平均5万人が訪れ、まちの活性化となっている。又、吹奏楽部の楽器不足を補うために、ふるさと納税で楽器を寄付して頂き、返礼として演奏会に招待をしているとりくみが感心した。

寄付楽器で感謝の調べ

いなべ市大安中学校吹奏楽部の定期演奏会「サマーコンサート」が、同市大安町大井田の市大安公民館であつた。市の「楽器寄付ふるさと納税」で集まった楽器を使って演奏を披露した。



寄付された楽器で演奏を披露する大安中吹奏楽部員。11日、いなべ市大安町大井田の市大安公民館で

いなべ市大安中学校吹奏楽部の定期演奏会「サマーコンサート」が、同市大安町大井田の市大安公民館であつた。市の「楽器寄付ふるさと納税」で集まった楽器を使って演奏を披露した。

楽器寄付ふるさと納税は全市の使われなくなった楽器を、いなべ市の教育機関に寄付することで、楽器査定額が税金控除される仕組み。昨年十月の受け付け開始後、大安中にはトランペットやフルートなど四十四の楽器が集まった。

この日は、部員らが、ス

主題は現代の方が切実に響く。八年前に亡くなったSF作家小松左京さんの短編「戦争はなかった」(一九六八年)を読んだ。ある日、境に、主人公の男の周りから太平洋戦争の記録も記憶も失われる。妻も、学友も、「戦争はあった」とかたくなな男をいぶかり、男は正気を失ったと見なされる。最も若い戦争体験者でさえ後期高齢者となりつつある現代。人の生涯に限りがあるように、社会の

タジオシブリのアニメ映画「天空の城ラピュタ」で使われた音楽のメドレーや、男性ダンス・ボーカルグループ「DARUM」のヒット曲「U.S.A.」などを演奏。曲の合間には「数多くの楽器を寄付し、支えていただいたことを感謝しています」と述べる場面もあった。

ニセ電話詐欺被害防止へ川柳を募集

県警と県民共済生活協同組合(津市羽所町)は、ニセ電話詐欺にだまされない心得を詠んだ川柳を募集している。八月末までに応募のあった作品から上位八作品を選び十月中に発表する。幅広い市民に被害防止に

った。嵐の合奏た舞台上に、聴衆からは曲が終わるごとに大きな拍手が送られた。三年の岡田通部長(右)は「寄付してくれた方の思い出や思いが楽器に込められていると思う。私たちが後輩の思いも楽器に込めていきたい」と話した。(梅田誠晴)

戦争と悲惨

記憶にも限りがあるのだとしたら戦争は過去の歴史となり、その悲惨は忘れ去られるのではないか。名張市の農業羽口和彦さん(右)はそんな「風化」を危ぶむ戦後生まれの一人だ。七年前から戦時中の資料や遺品の収集に努め、十八日に名張産業振興センターで開く「平和のつどい」で展示する。戦争体験者のいない戦後社会。私たちはその現実にも備えなければならぬ。(梅田祥尚)

波の詩

視察研修成果報告書

令和元年12月9日

議員氏名 柰宜田 拓治

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期 間 令和元年11月14日（木）～元年元11月15日（金）
- 2 視察先 大阪府八尾市、三重県いなべ市
- 3 視察の種類 会派（令和新風会）
- 4 視察の成果等

(1) 11月14日（木）午後1時40分～

視察先： 八尾市役所

研修項目： ゴミ出しについて

説明者： 環境事業課 柏原課長、宮坂係長 資源循環課 安井主査

①ふれあい収集について

ア 事業の経緯と目的、内容

- ・日常生活のサポート 平成17年10月1日～
- ・一人暮らしの高齢者や障害者で介護を必要とする方の家庭ごみを玄関先で収集する。
- ・粗大ごみもオッケー（粗大ごみだけはダメ）
- ・可燃ごみが連続2回以上排出されていないときは、連絡先や関係機関に連絡する。現在、92名が利用

イ 事業予算

- ・特になし

ウ ふれあい収集担当

- ・2トンパッカー：32台
- ・3.5トンパッカー：5台 パッカー車担当合計：117名
- ・軽ダンプ：3台 ダンプ担当者：2名
- ※環境事業課の収集担当の市職員（直営）は、180名
- ※保有車両は全部で86台 内、一般ごみ収集用パッカー車：50台

エ 利用して頂くための広報について

- ・広報に掲載、他にちらしで広報

②回収ボックス設置事業について

ア 経緯、内容

- ・平成9年から拠点回収を行っており、21年からペットボトルと充電式電池を、市役所や10出張所、リサイクルセンター、保健所、市内小売店に回収ボックスを置いて回収している。 ※充電式でない電池は複雑ごみで出す。

③ごみゼロ資源が循環するまち

ア 3Rの取り組み

- ・環境教育に力を入れている。
- ・幼保、小中学校で、全児童生徒に環境教育を環境課の職員が出向いて、グッズ等を手作りで実施している。

イ 市民への広報

- ・ホームページ、スマートフォン、ごみカレンダー、市広報

ウ 問題点

- ・集団回収の中でも新聞発行部数の減少による減量がある。
- ・資源化率14.7パーセント 伸び悩んでいる。

【所感】 市直営で、資源ごみも路線方式ということで、個別訪問ができています。本市では、根本的なシステムが違うので、参考にならない。

(2) 11月15日(金) 13時～

視察先： いなべ市役所

研修項目： にぎわいの森について

説明者： 桑島主事

① 事業の目的と経緯について

- ・コンセプト：いなべの豊かな自然、里山、農産物等の地域特有の資源を生かして、都会の人を魅了しよう。
- ・オンリーワンの技術や経営スタイルを持つテナポを公募（地元店舗ではない）
- ・大阪、名古屋から5テナポが出店

② 建設費と年間経緯について

- ・にぎわいの森の建設費：5億5千万
- ・管理費：150万円（イベント費）
- ・草の管理、清掃は、半年で300万円

③ 全国から店舗を集めた理由

- ・トップランナーによる賑わい形成のため
- ・地元業者との交流会を開催して理解を求めた。

④ 店舗の条件

- ・建物は市が建設（設備も店舗の意向を聞いて設置）
- ・電気、水道代は個々で。月13万円くらい
- ・20万円以下の修繕等は個々で、それ以上は市が行う。（ふるさと納税活用）

⑤ この事業の地元の就労について

- ・8割が地元民

⑥ 地元業者との問題点

- ・当初あったが、今はない。議会では1票差で可決された経緯。

【所感】 有名店を集めた発想と、それを実際に事業化した市の胆力はすごい。議会では、1票差ということで、今の賑わいは、英断を称えているようだ。